



# 道徳のとびら

## 家族の思いを感じてみよう

ゲームやスマホ、遊びや寝る時間などについて、それぞれの家庭でルールや約束はありますか？  
家庭でルールや約束をつくるのはなぜでしょうか。ルールや約束に込めた思いについても、いっしょに話し合ってみましょう。家族を思う気持ちに目を向けながら、家族や身近な人と次のお話を読んで考えてみましょう。

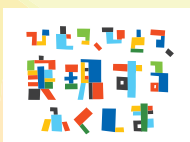
### だいすけの家族会議



考えたことを友だちや家の人と話し合ってみましょう。

●自分の考え

●友だちや家の人への考え



福島県教育委員会

# 1 大和田 新さんが伊達市立松陽中学校で お話ししてくださいました

大和田 新さんは、福島県で45年間ラジオアナウンサーの仕事をしている方です。伊達市立松陽中学校の皆さんが、大和田さんから東日本大震災の取材を通して感じたことをお聞きしました。



## 「今日という日は 次の災害が起きる前の日かもしれない」

11年7ヶ月前の話します。でも過去の話ではないのです。  
「今日という日は、次の災害が起きる前の日かもしれない」ということを認識してほしいのです。台風19号でも大きな被害がありました。災害は今も起こり続けています。災害が残した爪痕をしっかりと心に刻んでもらいたいです。只見線がようやく復旧しましたが、まだ県内で災害の被害から復旧してないところはたくさんあります。災害は他人事ではないのです。当時「ここまで逃げれば大丈夫、そう思っていた人が多くいました。しかし、大丈夫ではなかったのです。多くの方が亡くなりました。私たちは津波に対してどのくらいの知識があったのでしょうか。1メートルの津波の計算上の死亡率は100%と言われてます。北海道南西沖地震の被害も大きいものでした。東日本大震災だけがすべての災害ではありません。これらの災害に対応し、これからの未来をつくるのは、皆さんののです。

## 「自分の命は自分で守る」

若い人たちにも震災のことを伝えなくてはならないという思いから、「ひとつ」という紙芝居をつくりました。

この話は、当時いわき市に在住していた高校2年生（男子）の話です。地震直後、彼は、自宅を飛び出し祖父の家へ向かいました。途中、多くの人へ避難を促します。小さい頃からよく知る後輩やお年寄りをストレッチャーで運びながら道に迷って困っているデイサービスの人も手を差し伸べ避難を促しました。その後、彼は祖父のいる家に向かい、津波に巻き込まれてしまったのです。「人の命を救う」という使命感をもって、17年間生きてきた高校生でした。

私は、紙芝居をご両親に見てもらった後に、感想を聞きました。お母さんは「息子をヒーローにするのはやめて」「誰も救わなくてもいいから生きていてほしかった」と話されました。では、どうしたら彼は、生きていたことができたのでしょうか。

もし、当時一人一人が、「私は大丈夫」と思わずに危機管理に対する意識があったのなら…。誰もが自分の命を自分で守る準備ができていたら…。救えた命があったかもしれません。ですから、何があっても自分の命は自分で守ることが大切なのです。

岩手県には「つなみてんでんこ」という教えがあります。地震で津波が来たら「つんでんばらばらに逃げ、逃げたところで落ち合う」という教えです。この教えを守った地域では、小中学生の多くが助かりました。小中学生は「つなみてんでんこ」と、大きな声で走り回りました。それに合わせて、地域の人でも避難しました。こうして自分たちも地域の人も守ったのです。そういう教えを大切にしている地域が命を救ったのです。



私たちは校外学習で請戸小学校に行き、被害の大きさに驚きました。当時、津波が起きたことを知りどう思いましたか。

あの際は、ラジオもテレビも「福島県沿岸部に津波注意報が出されています。沿岸部には近づかないください。」と淡々と通常通りに流れてきた原稿を放送していました。当時の私たちメディアは勉強不足だったのです。でも、1メートルの津波でも人が死んでしまうという認識があれば、もっと具体的に強く伝え、多くの人の命を救えたのではないかとすごく反省しています。

「自分の命は自分で守らなければならぬ」改めてその思いに気が付きました。ずっと忘れずに心に刻もうと思います。

ほくも誰かのためを思えるそんな人になりたいと思うきっかけになりました。

震災とともに生きていく人の思いや、亡くなってしまった人の家族の思いを知り、震災は前に起きたことではないと思いました。今も、これからも震災があったことは忘れないようにしたいです。

合唱で「群青」を歌います。お話を聞き、感情をこめて歌うことができそうです。

# 福島を生きる



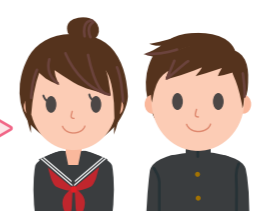
## 地域力 「地域力が命を救う ことにつながるのです」

たくさんのご家庭を取材した大和田さんが、福島県の小中学生のお子さんをもつご家庭へ伝えたいことはどんなことでしょうか。

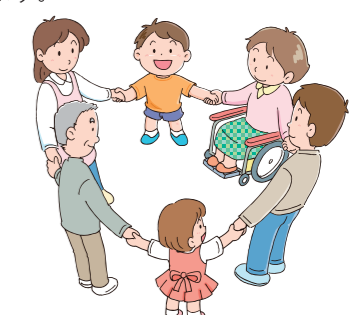
「あいさつ」です。コミュニケーションですね。北海道の胆振東部地震（いぶりとうぶじしん）では、残念ながらたくさんの方が亡くなっています。それでも二次災害がなかったのです。自衛隊にも警察も消防も二次災害がなかった。これは奇跡に近いことなのです。それは、「この家は、おじいさんとおばあさんが二人暮らしで二階の東側に寝ている」「この場所は危ないから、こっちを通りなさい」とみんなが分かっていたからなのです。

これは、地域力です。地域でみんながあいさつをする。コミュニケーションをとる。このような、地域力が命を救うことにつながると感じています。ですから普段から「ありがとう」を伝えているかということですね。「いただきます」も大切です。そこにあった命をいただき、自分の命にするのだということをご家庭でも子どもたちに教えていかないといけないと感じます。家庭や地域でのあいさつやコミュニケーションが命を救うことにつながると考えています。

「いつ災害が起きるか分からない」ということを考えました。だから、家族とその時にどう行動するか、集合場所はどうか話しておくべきか話しておきたいと思いました。



大和田先生の伝え方、話し方の迫力に圧倒されました。震災の時に行動した高校生の話を聞いた時は涙が出そうでした。



## 地域とつながる道德教育 下郷町立下郷中学校

### たくさんの体験活動で 地域とつながり郷土を学んでいます

### 子どもの未来につながる 故郷に学ぶ道德教育



大内宿の茅葺き屋根の葺き替え体験

何気なく見えても、目を向けなければ見えないものがたくさんあります。地域の「人、もの、こと」に実際にふれあい、かわり、感じてみて、改めて目を向けることで、それらの温もりや輝きを感じ取ることができます。ぜひ郷土の宝に目を向けてみてください。



そんな歴史があったんだ！



地域の焼き物体験

地域のお店の人からマナー講座

## 道德教育推進教師の先生にインタビューしました

下郷町には、伝統的な資源や人材はもちろん、持続可能な社会を見据えた取組などがたくさんあります。教員自身も、子どもたちと一緒に地域を学び共に考える中で、下郷町の新たな一面や魅力に気付くことができました。日々の生活で感じていることや体験的な学習を通して学んだことが、道德科の授業とつながり、子どもの道徳性が育まれていくということを実感しました。



# 心が動き体が動く！ 生き方を見つめる道徳教育



～道徳教育推進校の取組から～



## 学年チームで取り組む道徳科の授業改善

小野町立小野中学校

小野中学校では、次に授業をする先生が先に行う先生の授業を参観して学んだり、一人の先生が他の学級で授業を行って比較研究したりして授業改善に取り組んでいます。どちらの方法でも、大切にしているのは、学年の先生がチームになり、生徒が本気で考える道徳科の授業をつくることです。

「この場面で一人一人がどう考えたのか知りたいね。」「今日は、〇〇くんが素直な気持ちを話してくれた。」「次の授業では、発問を変えてみたら、もっと深く考えられるのでは？」職員室では、教科を超えて先生方が、道徳科の授業の進め方や生徒の様子を語り合う姿が見られます。

## 体験活動を通して地域に対する思いを深める

中島村立中島中学校

中島中学校では、「かわり合いを通じて、多角的・多面的に考え、自己の考えを深めることができる生徒の育成をめざして」というテーマに向けて、道徳教育推進教師を中心とした道徳教育の充実と改善を図っています。

2学年では、地域内事業所の協力を得た職場体験により多くの方とかわりました。「普段利用しているコンビニで、レジ打ちや声出しをして、お客さんに褒められてうれしかった。」など体験を通して、生徒は「勤労の尊さ」「地域に対する意識」「自己の将来」「地域の人々とのかわり」などについて、思いを深める機会となりました。



## 「コミュニティの拠点となる学校」を目指して

富岡町立富岡小学校

富岡小学校では、「コミュニティの拠点となる学校」を目指し、日々の教育活動に取り組んでいます。校舎には「地域交流室」があり、地域の方々を訪れ活動しています。6月には、七夕集会に向けて、児童が地域の方々と一緒に七夕飾りを製作しました。アドバイスをいただきながら、笑顔で取り組む児童の表情が印象に残りました。

児童が学校・地域に誇りをもち、いきいきと生活できるよう、家庭、地域との連携を進めています。

## 友だちと話すことで考えを深める

～心のものさしを活用して～

いわき市立小川小学校

小川小学校の道徳科の授業では、高橋尚子さんの教材を通して「目標に向かって努力する」ことについて考えました。挑戦を続ける過程では、前向きな気持ちだけでなく、それと相反する気持ちもあることや、後ろ向きになってしまう気持ちを乗り越え、あきらめずに努力し続ける大切さ等について話し合いました。

心の葛藤を赤青の割合で表現できる「心のものさし」を使いながら友だちと話すことで、自分の考えと友だちの考えを比べて、自身の考えを深めることができました。

